

## 呼吸管理委員会

委員長 石田 正之

### 概要

当院の呼吸管理委員会は、呼吸器内科、呼吸器外科、循環器内科、心臓血管外科、救急部、透析科および主として集中病棟の看護師、急性期臨床工学技士、理学療法士、医事課職員から構成され月1回委員会を開催している。

### 体制

昨年度と変更はなく17名の委員で構成されている。

### 活動内容

委員会での活動報告を元にした、呼吸管理体制のありかたを日々検討し、臨床現場へのフィードバックや呼吸管理機器の更新、新たな機器の導入の検討を行っている。

もう一つの活動の柱となっているのが2005年から行っている、RCT（呼吸管理チーム）によるラウンドである。RCTラウンドは適切な呼吸管理の構築、早期の呼吸器離脱を目標に、主治医とともに呼吸管理を行っている。

### 実績（図1-6）

気管挿管による人工呼吸管理（IPPV）症例が321例、非侵襲的陽圧管理（NPPV）症例が238例でNasal High Flow（NHF）症例が97例であった。このうちRCTは約9割の症例に介入を行っている。本年は、IPPV症例は昨年と同数で高い管理症例数で推移している。NPPV症例は、例年なみの症例数であった、平均管理時間は減少しており、早期の離脱が図られている。NHFも例年と同数であった。IPPV、NPPVともに呼吸管理の基礎となった疾患はこれまでと同様で変化はなく、呼吸器離脱までの日数に関しても症例数は増加しても管理期間の延長などなく推移した。人工呼吸器関連肺炎（VAP）に関しても1例と、非常に低い発生率で管理ができてい

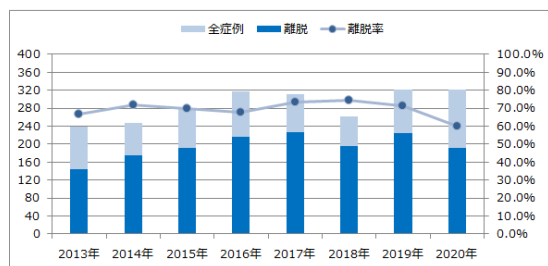


図1：挿管呼吸管理患者数の年別推移

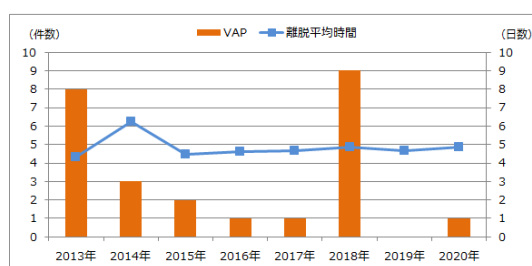


図2：挿管呼吸管理例の平均管理時間とVAP（人工呼吸器関連肺炎）発生数の推移

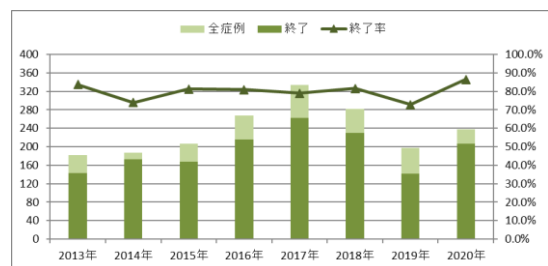


図3：非侵襲的陽圧管理患者数年別推移

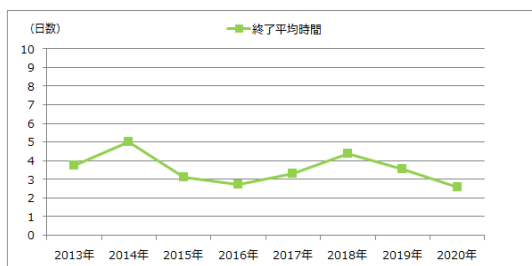


図4：非侵襲的陽圧管理の平均管理時間推移

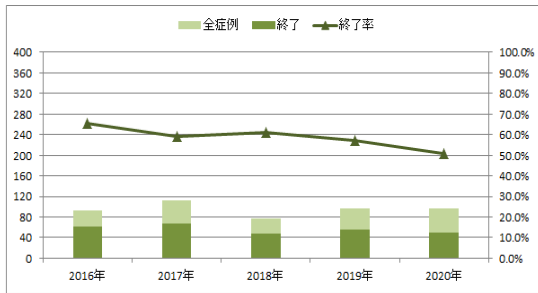


図5：NHF 管理患者数の年次推移

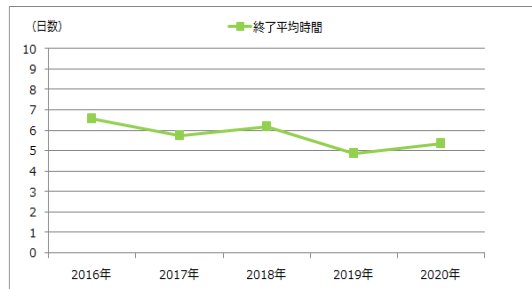


図6：NHF 管理平均管理時間推移

### 課題

RCT チームを軸にさらに Step up を図っていきたいと考えている。一方で新型コロナウイルス感染症の流行下で、いかに感染予防を講じつつ、必要かつ適切な呼吸管理を実践していくかは重要な課題になっている。まだ感染の収束には時間を要すると考えられており、院内感染対策チームとも連携を図り、より安全な呼吸管理体制の構築を考えている。